

市民社会フォーラム学習会「東北に、日本の未来の希望を見る」における
座間宮ガレイ氏の妨害行為についての検証と所感

市民社会フォーラムは2015年11月6日に社会活動家の友岡雅弥さんを講師に「東北に、日本の未来の希望を見る」と題して学習会を開催しました。講演の趣旨と講師のプロフィールは以下のように告知し、当日も紹介いたしました。

■□■市民社会フォーラム第164回学習会■□■

十三藝術市民大学 社会学部
「東北に、日本の未来の希望を見る」

日 時 11月6日（金）19:00～21:00（18:30 開場）

講 師 友岡雅弥さん

参加費 1000円

お申込みなしでどなたでもご参加できますが、人数把握のためご連絡くださればありがたいです。メール：civilesocietyforum@gmail.com まで。

「東日本大震災後、甚大な被害を受けた全ての市町村を訪ね、自ら足を運び目と耳と心で、東北の様子を、人々の声を見聞きしてこられた『アクティビスト・友岡雅弥さん』が、閉塞する現状を打ち破る可能性として『東北にこそ、日本の希望の未来が見える』という視点から東北の過去、現在、そして未来を展望する講演をいただき、皆様と一緒に考えたいと存じます」

友岡雅弥（ともおか まさや）さん

社会活動家、ハンセン病市民学会、大阪子どもの貧困アクショングループ、紙芝居劇むすび…他多数の支援に携わる。

高校時代よりハンセン病療養施設の慰問を始め、釜ヶ崎の夜回りを現在も尚続けておられ、阪神大震災、東日本大震災の支援や、子どもの貧困問題等々、多数の社会問題に真正面から取り組み、活動されています。

1. 講演の要旨

講師はご自分の職業としてではなく、あくまでも個人のボランティアとして、東北各地に行き、その現場で、自分の目で経験したことを述べられました。岩手各地、宮城各地、浪江、飯館、また田村の都路などの入植・開墾と言う血のにじむ苦勞をこそ、私たちは学

ぶべきではないか、という全体的な枠組みでした。そういう地域の営々とした努力を顧みない、「国策」の非情さ浮き彫りにしたいという趣旨でした。

田野畑村から順に野田村や田老や陸前高田などと南下して、福島でもいろんな困難のなか、歯を食いしばって生きている人たちの、生の姿と声を、少しでも知って欲しい、それで、ここにいる人たちも、自分の目で見て欲しいということを何度も強調されました。

岩手県では、1920年代のアナーキストや社会主義者による医療協同組合や生活者組合が戦時体制に抵抗しながら、生き延びたり潰されたりされ、新憲法のもと復活したそうです。しかし、1950年代後半からの地方切り捨て(昭和の大合併を含む)で息も絶え絶えのところ、小泉構造改革、そして今回の大震災で組合がどんどん潰れていっているそうですが、それでも知恵を出し合って復興に取り組んでいることがお話しされました。

宮城県などでは、創造的復興の名の下に、地域の100年以上続く様々な努力が破壊されようとしているそうです。講師は明言しませんでした。宮城県の住民への冷たさは岩手県との対比において、岩手の達増知事と宮城の村井知事の施政の違いが明瞭だと思いました。

福島の放射能汚染の現状についてもお話がありました。福島各地でフレコンパックが山積みそのまま中間処理施設もまだできておらず、深刻な放射線汚染の現状が語られ、廃炉のための原子炉模型を建設するだけでも莫大な費用が投入され、廃炉するだけでもそうした負担があることも強調されていました。

飯舘村に会津電力とのきょうだい会社の電力会社が立ち上がろうとしています。太陽光とともに小規模水力も進めようとしています。残念ながら、福島県の水利権は東電が持っており、水力発電を導入することを困難にしています。

このことについて講師から後日次のようにコメントいただきました。

「戦争中の産業報国会体制の名残です。つまり、それは象徴的な意味があると思うわけです。東電を始めとする今の電力会社寡占体制は、戦時動員、国家総動員体制の名残なわけです。そのようにして見て見ると、例えば、憲法九条の問題と原発の問題は、もっとリンクするのではないか、と想っての全体的な流れだったわけです」

2. 質疑応答における座間宮ガレイ氏らの妨害行為ならびに主催者としてのお詫び

この催しにご参加・協力された方にお礼とともに当日起きたことについて主催者としてお

詫び申し上げます。

講演会の最後に、質問ではない詰問・糾弾して講師に失礼な行為をし、主催者も非難して途中退席した方は、座間宮ガレイというブロガーです。座間宮氏と、彼を当講演会に連れてきた数名の人々に学習会をぶち壊されましたが、とくにきちんとした謝罪をする気配もないので、要注意人物として問題を明らかにしなくてはならないと考えております。

これは、私と一緒にこの学習会を企画した方の意見でもありますが、いま思い起こせば、座間宮氏らと数名の人々らは、最初から学習会をぶち壊す意図をもって潜り込んできたのではないか、という疑念が残ります。下記概要と後掲の文字起こしで明らかのように、講師と主催者を一方的に糾弾する行為をしておきながら、いまだに謝罪・反省の意思を明らかにしていないことから、その疑念は濃厚だと考えております。

■当日の混乱の大まかな顛末

福島からの避難者の方が事実関係をただす質問ではない「意見」を講師に投げかけた際、講師は丁寧に返答されました。それに対し、座間宮氏は「それならネットでいまずぐ調べてファクトを出すべきだ。10秒あれば調べられる」という主旨の詰問を執拗におこない、揚句に罵声を上げ、「あなたのことが信用できない」などと暴言を吐くなど、講師に対して失礼な行為を続けました。

司会者は、時間があればデータも出して議論してもいいが、時間も終わりに近づいていたので、お互いの意見の違いがあるということにしておいて、そもそも学習会の趣旨は放射能の問題について個別具体的なことを明らかにするのではなく、東北の復興から我々が知り学ぶことなので、打ち切ろうとしました。しかし、座間宮氏は不規則発言を続け、揚句に、「司会進行に非常に不満がある」と大声を上げて退席しようとし、さらに退席しながら「許せないな」「ファクトも示せないような話など聴けねえぞ！」などと声を荒げるなど、不規則発言を続けて場を大きく混乱させました。

このように、質疑とはおよそ言えないような、自己中心的な非難をする心無い方々による騒動によって、講演の中身をさらに深めることが十分にできませんでした。加えて、座間宮氏の退出後、彼をこの講演に誘った人々も席を立とうとしたので、こういう脱原発派の一部のやりよう（自分の正義感を押し付け、異論をたたき、気に入らなければ出ていく姿勢）に抗議をすると、今度は、座間宮氏に同調して席を立とうとした数名の人々がまた不規則発言して、講演会のまともな総括もきちんとはできませんでした。

以上のように、座間宮氏らは、主催者のもとより、講師や一般参加者に対して、非常識極

まりない振る舞いをおこないました。

■講演会終了後の問題

騒動の後も、座間宮氏は真摯な謝罪や反省もなく、主催者や講師に問題があるかのような印象操作をツイッターやフェイスブック、ツイキャス上で続けています。また、座間宮氏をこの講演に誘った人々も、きちんと反省しないばかりか、騒動直後に、座間宮氏を連れてきて迷惑をかけたことなど全然反省もせず、逆に主催者に「説教」をしたつもりの人々もいます。

当フォーラムには、「なぜ座間宮氏があんな行為をとったのかの原因がわからない」という問い合わせもいただいております。また、まるで「講師や主催者に原因があるんじゃないの？」という心ない詮索も受けております。

■騒動の録画・録音・文字起こしについて

市民社会フォーラム主催の講演会や勉強会は、大半が講師の同意や聴講者への説明を経て、ライブ中継あるいは録画配信をおこなっております。但し、今回の講演に関しては、録画・録音等の公開はしない（今講演の講師は、今回に限らず、録音録画文字起こしはすべて公開をお断りなさっている）前提で講師にお引き受けいただいていることや、聴講者にも映像公開の同意を取っていないことから、安易に録画や録音を公開することはできないのが実情です。関係者のみに用途を限定した録画・録音はありますが、前述した事情により、残念ながら皆様にも詳細にお伝えすることはできません。

しかしながら、座間宮氏の自己正当化がいかにか欺瞞であるかを示す必要があると考え、講師に無理を言うてお願いし、騒動の箇所限定した文字起こしの公開に同意をいただきました。文字起こしの公開により、当日に実際にどんなやりとりがあり、座間宮氏らの主張にどのような問題点があるのかをお示しいたします。

■「脱被曝」との関連

まず、騒動を起こした座間宮氏や数名の人々の主張について、いわゆる「脱被曝」と総称される、放射能問題を過剰にあら探し騒ぎ立てるような、講演全体の趣旨にそぐわない詰問が続いたことを強調しておきたいと思います。

東北のことを語るときに、全域について「放射能」のことを語らねばならないのでしょうか？ 普代村や野田村の復興のことを語るときに、「放射能」のことを語らねばならないのでしょうか？

地図で、福島第一と野田村の距離を見れば、東京と福島第一原発の距離よりも、はるかに離れています。

野田村で、小規模の太陽光発電の努力がなされて、ローカルエネルギーへの先進的取り組みがある話をしたら気に入らないのでしょうか？ これとて、「脱原発」の新しい社会への動きでもあるのですが…

そもそも、今回の講演会は、福島の問題だけではなくて、北から順番に、被災地に諸々山積している複雑な現状のなかで、戸惑いながらも、なんとか歩みを進めている人たちがいることに対して、私たちは何ができるか、というのが、学習会の趣旨であったのですが…

座間宮氏は全然悪くないなどと同調した、これら数名の人々からは、「講演の内容はみんな知っていることであり、しかも間違っただけを教えているので、金返せと言いたい」という主旨の酷評を終了後に受けました。これら数名の人々にとっては、お金を払って講演に参加したほかの多くの聴講者の気持ちなどまるで関係ないようです。

講師に関しても、「福島から避難した人からの詰問を馬鹿にした態度だ」などという主旨の非難も受けましたが、逆に「講師に対して失礼な自己主張を投げかけたのは、誰なのか？」と問いたいものです。後日、質疑でのやりとりについて詳細に調べましたら、その主張は事実誤認あるいはデマと言えるものでした。座間宮氏を連れて来た数名の人々が、講師の間違いを訂正するよう詰問した内容そのものが間違っていたということになります。間違っただけの認識のもとに、講師に非常識極まりない詰問をおこない、講演の場を大混乱に陥れた彼らは、この騒動の責任をどのように取るつもりなのでしょうか。

3. 「専門家ならデータを示せ、ネットですぐ調べられる。10秒あればできる」という座間宮ガレイ氏の暴言について

福島の木材から放射性セシウムがどの程度検出されているかということについて、座間宮氏は「専門家ならファクトを示せ。ネットですぐ調べられる。10秒あればできる」という主旨の詰問を講師におこないました。そのデータなどについては後ほど検証しますが、講演の主旨に対して全く無理解あるいは逸脱した暴言であることは明らかです。

まず、講演の趣旨は放射線のデータを専門的に検討することではなく、福島のみならず宮城や岩手といった広範囲の東北復興の実情を学ぶことにありますので、放射線のデータに拘泥する詰問は講師をやりこめる、いわば「ためにする」ための議論だと言われても仕方ないものと言えます。

なお、市民社会フォーラムでは、放射線に関して専門家を招いて講演会をいくつか開催しておりますが、その際にもよく「重箱の隅をつつく」かのように、被曝の影響をことさら過大視する質問攻めや自己主張をする、いわゆる「脱被曝」系の人のおこないが、多くの聴講者から蟹蹙（ひんしゆく）を買っている光景を何度も見てきました。実は、今回の講演会にも、過去の講演会で「脱被曝」系の質問攻めをしていた人物が座間宮氏を誘っていたことが明らかになっています。このことから、今回の騒動は意図的な学習会潰しの疑念が拭えないものと考えております。

また、「講師は放射線に関する専門家ではない」のは略歴をみれば明かなことです。にもかかわらず、放射線に関する詰問に対して「専門家ではない」と答えた講師を罵倒した座間宮氏らの振る舞いは、まるで、「専門家でなければ福島での放射線について語る資格がない」かのような不当な非難は、あまりにも失礼極まりない言動であると言えます。

付記すると、講師はパソコンで「上手な」プレゼンテーションをする手法に批判的です。そのことを続けて説明しようとしたのに、座間宮氏らは聞く耳を持たず罵声を浴びせかけたのです。下記は講師から後日伺ったコメントです。

=====

奇跡の集団移転を成功させたOさん（自治会長）が言ってましたけど、「私たちが成功した理由は、パソコンを使ったプレゼンテーションを上手にする東京のコンサルの愚かさを、最初に気づいたからです。プレゼンテーション上手な人間は、現場とまったくちがうところで、現場に役に立たない案ばかりで、それを採用したところは、ほとんどだめになると。

確かに、野田村から、いわきまで、その通りでした。「子どもの貧困」と言われる課題も、いくつかの場所で、居場所づくりの手伝いをしておりますが、いろんな問題について、それを課題として対象化してみる視線ではなく、その課題の場所から、世間や社会を見ることが大事だと思うんです。

=====

このような、立ち位置や問題意識の違いから「ファクトはひとつではない」ということこそが、座間宮氏らの一方的な「脱被曝」的主張に対して、講師が強調したかったことです。しかし、その大切な話をするにすら彼らの行為によって、ほかの一般の聴講者にも十分に伝えることができなかつたということで、この場をお借りして強調しておきたいと思っております。

4. 放射能に関する講師への「訂正」意見の検証

講師は福島で風評被害を受けている木材について話されたのですが、福島からの避難者（不規則発言を続けた数名のうちの1人）が、質疑応答の場で講師に対して以下のように「意見」されました。後述する「仮設住宅」に関する講師の意見を徹底的に否定する姿勢と併せて考えると、この意見は理不尽な「詰問」であると言っても差し支えないと思います。

■福島からの避難者の「意見」（要約）

今福島の木からセシウムが検出されています。

もう芯まで汚染がすすんでいますので木材として扱えない状態です。

ですけどもそれを木して扱えないので合板のようなかたちで切ってそれを強い接着剤で張り合わせて木のようにして加工して出す、加工品という形で実際の木ではない形の国は許可しようとしています。

そういう実態がありますので芯まで、皮さえ剥けば大丈夫だということではありません。

残念ながら県も新しい実害があるということ風評被害ということで、実害あるということ伏せてきている。

私は福島県民なので そのところは悲しいほど身にしみています。

■講師の返答（要約）

僕は皮をむけば大丈夫だと思います。

福島と茨城と栃木はひとつの山続き。ベクレルからいうと、福島の阿武隈山系の木と、それから茨城、栃木の木というのはほとんど変わらない。ただ、そこで茨城と栃木と福島で、ひとつの連合をつくって、この木に関してはどうしたらいいのかということになったが、茨城と栃木が抜けた。なぜかという、福島と一緒にしたら自分たちの県も福島と同じと考えられてしまうから。地域によっても、木は異なるし、あるときにどう風が吹いていたかによっても全く異なる。ある製材屋さんを支援させていただいていたがそこはちゃんと毎月1回、線量検査をやっていて、今日もゼロだったので、芯材のところを使っていました。

■この「意見」の悪しき態度

このように、聴講者からの質問に対して、講師は丁寧に返答しています。講師とこの聴講者の間に意見の相違はありますし、自己の主張を押し通す聴講者の姿勢ははっきりと感じられますが、この段階まで「口論」は一切起きていません。にもかかわらず、その直後に質問に立った座間宮氏は、高圧的な口調で、「専門家ならデータを示せ、ネットですぐ調べ

られる。10秒あればできる」などという主旨の「攻撃」と言っても差し支えないような無礼な言動をおこないました。まるで、総会屋の株主総会荒らしか、あるいは誤った見解に基づいて行政責任者を理不尽に問い詰める人々の様子を彷彿とさせるものでした。

後日、講師に確認したところ、福島からの避難者の詰問は、おそらくデマ情報の影響を受けていたのではないかということです。情報源と思われるのはこのブログ記事です。

「福島県全域から汚染木材を集めて加工する CLT 工場を、あの大熊町に建設。木の中心部分の汚染は 2000bq/kg！」

http://blog.goo.ne.jp/flyhigh_2012/e/b76853de83e1a746f9ba8d3ff7eeaa90

このブログは、被災者同士、支援者同士、あるいは反原発を願う人たち同士を反目させてきたブログなのだそうです。

そして、木材のセシウムデータについては、それぞれの生産者が発表するという形で、福島県としての全体的発表はまだおこなっていないという状態なのだそうです（少なくとも学習会のあった 2015 年 11 月 9 日時点では）。

皮をむいてきちんと製材すれば、放射能は問題ないと、昔から優れた木造住宅を造ってきた建設会社の社長から聞いたことを講師が紹介したら、「すべて福島の木はもう使えない」と嘯みついてきたわけです。

そもそも、ここで講師が言いたかったことは、福島のある地域ではシイタケのほど木の全国的な産地なのにダメージをうけ、さらに広葉樹なので国からの補償が少ないということ、被災当事者（林業従事者であり、しかも被災者でもある）の立場の話をしたわけです。

ここでも明らかなように、福島の現地の方々が国の無策もあいまっていかに苦勞しているかを明らかにした講師の話については関心を抱かずに、ひたすら放射能汚染のことを問い詰めるという「脱被曝」系の悪しき傾向が浮き彫りになっています。

※参考までに、福島の木材については以下の論文が詳しいです。

【分りやすい要旨】

「木材における放射性セシウム分布の変化」 高野勉

https://www.ffpri.affrc.go.jp/thk/research/publication/ffpri/documents/kikanffpri-22_16-17.pdf

【詳細な論文】

「森林生態系における樹木・木材の放射性セシウム分布と動態の調査法」

<https://www.ffpri.affrc.go.jp/pubs/bulletin/432/documents/432-6.pdf>

このほかにも、参考となる資料がいくつもあります。

福島県の HP 放射線関連試験研究成果

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/kenkyu12.html>

「立木における放射性物質の汚染実態の把握」 福島県林業研究センター

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/106854.pdf>

「福島県の森林の放射性セシウム汚染の実態と長期モニタリング」

https://www.jstage.jst.go.jp/article/tits/18/6/18_6_68/_pdf

以上のような点からみれば、聴講者の「意見」は、言い方は悪いですが、「放射能デマ」に基づく、間違っただと云わざるを得ないと思います。

5.もうひとつの、講師への「訂正」意見の検証

直接の紛糾の原因となったのは、先述した福島の木材に関する「放射能デマ」だったので、もう一つ講師が「意見」される場面がありました。同じく福島の避難者の方からの「訂正」意見についてのやりとりを以下に記します。

=====

聴講者（女性 A）：すみません。訂正だけ。さっき、仮設住宅を1戸あたり600万（円）とおっしゃいましたが、だいたい平均が6坪から9坪です。そこに600万掛かっていたとするならば、それは素晴らしい仮設住宅になったわけですし、仮設住宅は平均50坪で600万でしかありません。ですから、そここのところは訂正してください。1坪で1軒の家が600万掛けたわけじゃないです。6戸、6戸が600万です。それは、個々の倉庫にあるものを…

友岡氏：そうそう…

聴講者（女性 A）：運んできて組み立てる。そこも含めて6軒分、約50坪が600万です。

ですから、いかに劣悪な仮設住宅であるかということが理解していただければと思います。

講師：はい。分かりました。すみません。

聴講者（女性 A）：ですから、1戸で、1戸だいたい四畳半2間と台所で600万掛けているんだったら問題はないということ。

講師：あー、それ、ちゃんと、あ、その600万というのは、先ほど言ったように、それ自体じゃなくて、ほとんどが倉庫料、輸送料ですわ。で、もっぺん、ちょっと調べてみますわ。僕の知ってるところでは、完全に1戸で600万になるって言ってはりましたけど。

聴講者（女性 A）：いえ、違います。それは、神戸のところでもそうでしたし、仮設を開いていただいたらすぐ分かると思います。私はその仮設に600万という説明を受けながら暮らしておりましたので、そのところは間違いはありません。

講師：はい。じゃ、あとで訂正しときます。

=====

このように、講師は聴講者による否定的な「意見」に対しても、いったん詫びた上で、自身が見聞きしてきた情報に基づいて、意見を述べています。一方の聴講者は最初から最後まで、講師の見解の否定に終始しています。

なお、このやりとりについても、講師から後日コメントいただいています。

=====

被災当事者と、ぱっと分かりましたので、若干、遠慮気味に話したのですが、仮設住宅の話は、あのかたの話は、違うと思っていました。実際、1戸あたりの話で、全プレ協からの引き渡しが、260万円ぐらいですが、その公費、またそこまでの電気などの引き回し工事もありますから、施行した後の自治体への引き渡しは、500万円～600万円です。あの方は、僕が「そんな立派なところに住んでいる」という風に言っていると、最初から、決めつけられて、話をされています。

僕が言ったのは、それほどの値段なのに、寒冷地と温暖地でもまったく同じなどという、とても、住む人のことを考えてないという話で、国側の人権無視を話したわけですが。おそらく、「仮設住宅にタダで住んで」などといういわれ無き批判にさらされたことがあるのかもしれない。

=====

そもそも、仮設住宅について講師が言及した主旨は、いわゆるプレハブ仮設に対して、木造仮設住宅の建設に取り組もうとした地元建設会社が、地元建材を使い地元の製材業や大工さんに仕事を産み出すことの大切さを考え、頑張ったということを伝えなかったわけです。それも1棟500万円程度で、600万円から700万円もするプレハブ型に遜色ない値段で造っているということです。

■仮設住宅建設費用に関する講師見解の正しさ

仮設住宅建設費用に関して、講師の示した金額が正しいことは、下記の記事を一読すれば明らかです。

「時事ドットコム：【図解・社会】東日本大震災・仮設住宅1戸当たりの建設費用（2012年5月12日）」

http://www.jiji.com/jc/graphics?p=ve_soc_jishin-higashinihon20120512j-01-w590

この数字もやはり仮設住宅一戸当たり600万～800万円となっています。

「阪神・淡路大震災における応急仮設住宅の費用算定に関する研究」

http://www.arch.kobe-u.ac.jp/~a7o/activity/theses-data/gra-mas/h11_m_kojima.pdf

神戸の仮設の建設費用は一戸当たり約300万円です。

■その場で調べさせようとした行為はあまりに短絡的

このように、一部の聴講者が、2つの「訂正」の「意見」で講師が間違っていると指摘したことは、実は指摘した側に事実誤認があり、講師は妥当なお話をされていたわけです。データや資料など裏付けをとれば明らかになることだとしても、デマをデマ、事実誤認を事実誤認として証明するのに上記のごとく膨大な労力がかかり、座間宮氏らが強硬にゴリ押しした「ネットですぐに調べられる。10秒あればできる」というものではありません。

だからこそ、デマはもとより裏付けのない主張で混乱を与えるようなことについて、とくに市民運動に関わる人たちはよくよく気をつけなければ、今回のような学習会潰しに加担しかねません。ましてや、講師や他の参加者の貴重な時間を奪って、このような愚問で紛糾させたことについて、座間宮氏らが真摯に反省すべきことは当然です。

6. 座間宮ガレイ氏の詭弁

座間宮氏は、ネット上で事実に基づかないデマを流布することで自己正当化をはかろうと

していますので、この問題を明らかにします。

まず、座間宮氏はツイッターやフェイスブック上で、関係者への説明として下記のような声明を出しています。(以下の斜体箇所はツイッターから引用)

*** 座間宮ガレイ #野党共闘 @zamamiyagarei2016-02-08 11:26:52**

まいどお騒がせしてます。座間宮です。昨日ツイキャスでちゃんと説明したんだけど、岡林さんのイベントの件。講師は某新聞の論説委員なんですよ。その論説委員の方が、質疑応答の際に、福島からの被災者の方と口論状態になった。どっちも正しいと譲らなかった。そこで私は挙手をして発言した。(続)

<https://twitter.com/zamamiyagarei/status/696520539767091201>

【反論】まず、当日も配布した案内にもあるとおり、講師について某新聞の論説委員とは紹介していません。そのような肩書きの方であっても、あくまでその立場としてではなく、社会運動家として東北に100回以上も足を運んでボランティア活動をされている経験を伺う場としています。その点は講演でも講師みずから断りを入れていました。このあとの座間宮氏の声明の続きにもあるように、某新聞の論説委員であることをもって非難をしています。それは「論説委員＝専門家」「専門家なのに答えられなかったから非難した」と誤った連想をさせる声明であり、あまりに卑怯だと言わざるをえません。

加えて、後掲の要約文で明らかにしますが、福島からの被災者からの訂正を求める意見(先に検証した通り、それらは事実誤認です)について、講師は丁寧に応答しており、その時点では全く口論状態にはなっていません。つまり、座間宮氏はこのような都合の良い歪曲をネット上で流布しているのです。

*** 座間宮ガレイ #野党共闘 @zamamiyagarei2016-02-08 11:27:24**

(承前) 私はPCで調べてファクトを示せば終わる話だからそうしません?と提案。断られた上、お前は間違えていると講師が激昂。私は、あなたは専門家ですよ?と聞くも、講師は、専門家じゃない、と激昂。おいおい論説委員だろ?と思いつつ私もヒートアップし抗議の意味で退出すると宣言し退出(続)

<https://twitter.com/zamamiyagarei/status/696520676421709824>

【反論】「お前は間違えている」などと講師が激昂した事実は一切ありません。座間宮氏が一方的に大声で糾弾していただけです。そしてたとえ講師が新聞の論説委員をされているとしても、それは放射線の専門家ではありません。また、「私もヒートアップし」とありま

すが、講師と司会の話を見聞かずに一方的に怒鳴り散らしたために、講師の声も次第に大きくならざるを得なかつただけです。「抗議の意味で退出」というのも、静かに出ていくのならまだしも、自分のやり方や主義主張を相手に押しつけ、思い通りにならないことに不満を募らせて相手に対し罵声を浴びせることが、果たして正しい意思表示なのでしょう？ しかも、「司会進行に非常に不満がある」と宣言し、立ち上がって退席する姿勢を見せておきながら、一向に退出せず進行を妨害し続けました。

講演は夜9時終了であり、遠方から来場された聴講者の帰宅の問題もあります。ですので、夜間の講演会開催は、主催者の立場で言うと、昼間の開催以上に終了時間はきちんと守られるべきものと考えております。その点からみても、進行を妨害しておきながら、そのことに反省もなく「抗議の意味で退出した」などと称する座間宮氏の横暴な振る舞いは、他の参加者への迷惑を顧みない、あまりに身勝手なものと言わざるを得ません。

* 座間宮ガレイ #野党共闘 @zamamiyagarei2016-02-08 11:34:04

(承前) 講師の新聞の論説委員の方も私も双方ヒートアップしたのは事実。相手も言い分があると思うし、私にも言い分がある。だがその場を離れれば終わりの話。講師の方の取材には頭が下がるし敬意を持っています。講師を批判するためにこれを書いているのではないことをご理解ください (続)

<https://twitter.com/zamamiyagarei/status/69652235523190785>

【反論】先述の通り、「双方ヒートアップ」ではなく一方的に講師や主催者に「ヒートアップを乗り越えた罵詈雑言」を浴びせ続けたのは座間宮氏のほうです。むしろ、講師も主催者も、突然の座間宮氏の激昂に当惑したのが真相です。しかも、「だがその場を離れれば終わりの話」というのは、まったく虫の良い身勝手極まりない意見です。このようにデタラメな発言によって、不誠実かつ無反省ぶりをさらけだして恥ずかしくないのでしょうか。加えて、講師に対して「敬意を持っている」などとしおらしいことを書いていますが、講演の場で、「あなたの言うことは信用できない」と罵倒しておいて、今さら何を言っているのかと開いた口が塞がりません。

* 座間宮ガレイ #野党共闘 @zamamiyagarei2016-02-08 11:39:17

(承前) ちなみに私が抗議をしたのは、イベントの終了前の質疑応答のラスト5分。メインの某新聞論説委員の講師のお話は滞りなく終わったあとで起きたことです。その後、間に入っている人が、直接会って話す場をセッティングし双方一度合意するも岡林さんは拒否。(続)

<https://twitter.com/zamamiyagarei/status/696523667354693632>

【反論】「直接会って話す場をセッティングし双方一度合意するも岡林さんは拒否」とありますが、非常に身勝手な主張です。当日夜のうちに座間宮氏の過去の悪歴を知り、とくにDV疑惑などハラスメンタルな行為に遭ったと申し立てている人がいることに加え、実際、当日も極めて荒れた暴言行為をしており、身の危険を感じて直接会うことを断ったに過ぎないものです。しかも、口頭や面会では、その場限りのデマカセを言ったり、意見をゴリ押しして無理矢理押し通したりする恐れがあります。「直接会って話す」などといって、言いくるめて、自分の優位にことを進める意図がアリアリと感じられますので、決してその手には乗らないようにし、口先だけの言い逃れがしにくい「文書」という形での謝罪を座間宮氏に求めたのは当然のことだと考えております。

そもそも、謝罪すべき者に被害者がわざわざ会いに行き、話し合いをするなど、本来はありえないことです。最低限、謝罪の意思と誠意を明確にしてその謝罪を被害者が受け止める意思がなければ、人の道に反するし、二次被害も招きかねないです。加えて、加害者側が被害者側に謝罪方法について注文をつけるというのは、謝罪の意思がないと受け取られても仕方ないと言わざるをえません。座間宮氏がすべきなのは、面会や電話による「話し合い」ではなく、「被害者に対する無条件でかつ心からの謝罪」だと思います。

実際、座間宮氏は過去にも執拗な暴言などの嫌がらせ行為を複数行った証拠もインターネット上に残っています。警戒してもしすぎということはありません。

当方は、座間宮氏に対してフェイスブック上にて下記のような投稿をしております。まさにこれに尽きます。

=====

Yさんを通じて謝罪を求めたのですが、お返事ないので。まずは講師や参加者にお詫びを表明されたらと思いますが。そもそも謝罪の意思がおありなら、すぐにお詫びされないなら、誠実さがはかりかねます。

2015年11月8日 12:20

=====

これ以降3カ月以上たってもまともな謝罪が一切ありません。このような酷いおこないをしてもまったく無反省の座間宮氏について、一体この人物はどういう人物なのかと調べてみたところ、トンデモない過去を持つ人物であることがすぐに分かりました。さすがに、このような人物に市民運動に中心的に関わってもらうことは、マイナスの影響をもたらすという可能性に危惧の念を抱き、市民運動の関係者に対して、座間宮氏と関わることに対

して警鐘を鳴らしている次第です。

*** 座間宮ガレイ #野党共闘 @zamamiyagarei2016-02-08 11:46:33**

(承前) その後、突如、なぜかネット上で騒ぎ始めた。私は公開で全て事実を書いた上で謝罪すると伝えるも、岡林さんは公開ではなくDMだと要望。岡林さんがネット上で騒いでいるから説明する必要があるのにそれを拒否されたので放置していた。何か質問あったらどうぞ。(続)

<https://twitter.com/zamamiyagarei/status/696525494225743873>

【反論】この点についてはフェイスブック上でやりとりがあります。

<https://www.facebook.com/events/853123821467979/permalink/864195807027447/>

Togetter まとめ

<http://togetter.com/li/937350>

いずれにしても、座間宮氏はいかなる形でもまともな謝罪などしていません。

*** 座間宮ガレイ #野党共闘 @zamamiyagarei2016-02-08 11:48:51**

(承前) 講師も私を罵倒したし、私もヒートアップした。ただしお互いに一線を越える言葉は使わなかったと記憶している。もちろん岡林さんも私を罵倒した。公開のイベントでこういうことはないわけではない。大人気なかったなと反省している。私も講師としてお客様からお叱りを受けることはある。(続)

<https://twitter.com/zamamiyagarei/status/696526075518582784>

【反論】講師も、司会をしていた岡林も、座間宮氏を罵倒していません。座間宮氏が大声で罵倒するから、やむなく大声での発言を強いられただけです。記憶違いなどと言い訳するかも知れませんが、明らかに言い逃れでウソを言っている印象はぬぐえません。

「一線を越える言葉は使わなかった」と主張していますが、学習会の場で大声で怒鳴りまくるような愚行を犯した時点ですでに一線を越えています。そのやりとりを詳細に記した文字起こしで見ただけでも、以下のような暴言箇所があります。講師や司会者、そして講師の話に耳を傾けていた多くの一般聴講者を激しく侮辱する発言であり、これらは明らかに一線を越えています。

「あなたの言うことは信用できないので調べてください」

「いや、失礼だな、この意見。許せないな」

「ファクトも示せないような話など聴けねえぞ！」

「やってられない、こんなの」

「最悪やな」

* 座間宮ガレイ #野党共闘 @zamamiyagarei2016-02-08 11:52:56

(承前) ここまで私が公で説明しなかったのは、講師の方を巻き込むのはやめたいと思ったからだ。その場でお互いに熱くなったがその場の話として矛を収めていただいているし私も収めた。だからここでは名前や肩書きの新聞社名は書いていない。いろいろあったが私は彼の取材に敬意をもっている。(終)

<https://twitter.com/zamamiyagarei/status/696527100493193216>

【反論】何かあれば、「名前や肩書きの新聞社名を暴くぞ」という恐喝とも受け取れかねない、卑劣な言い様です。もちろん謝罪をする側の立場の人間が言う発言とは到底思えません。

6. 座間宮ガレイ氏の「学習会潰し」についての証言と感想

主催者のみならず、ほかの聴講者等の感想も掲載いたします。

■当日参加された方の感想

今回の主催者の茂村（今回の全ての企画者です）と申します。

貴殿の言う通り、「落ち着いた対応」をしてくださってれば、あのような講演会を台無しにしてしまう事態にはならなかったはずです。

貴殿が仰る…まさに「落ち着いた対応」を、しなかったことが原因と考えます。

参加者の中には女性もおられましたし、学生さんもおられました。

貴殿の恫喝のような講師への詰問、司会者に対しての暴言により大変恐怖を感じたとの報告も受けております。

講演会終了後には、講師を囲んでの懇親会も予定されておりました。

それを楽しみにしておられた参加者もおられます。

また、講師に初めて会う方も多く、挨拶する場も予定されておりました。

それら全てができなくなりました。

計画を全て壊され、参加者も大変残念だったとの声も多いのです。

素直に非を認められ、講師と参加者の皆様に謝罪されることを求めます。

=====

私は現場にいてやり取りを見ましたが、サングラスの男（座間宮氏）の言い分が間違っていると思いました。

講演者は 100 数十回以上、東北被災地に入り長年にわたりその地の人々と交わり取材を行っているのです。

サングラスの男はどれだけ東北被災地に入ったのでしょうか？

特に許せないと思ったのは、放射能値をいうのにスマホをかかげて、これで調べろと講演者に指示したことです。

スマホ情報を正しいと思うアホさ加減に驚きました。

自分が真と確認できる以外、真と受け入れない態度は、言論人の常識です。

スマホ情報を信じないから、講演者は 200 回近くも自らの足で現地に入っているのです。

これでサングラス男の言うことは、絶対に信用しないと決めました。どうせスマホから取った情報だろ。

今こういう若者が増えてきていますね。スマホで情報をとり、とくとくと弁舌を披露する。

せいぜいサングラス男のブログもどこかのコピペでしょう。

東北被災地の講演を楽しみにし、後の二次会で色んな質問をしようと思っていましたが、彼の愚かな行動によってぶち壊されました。彼は謝罪すべきです。

=====

普通、常識的に講演会に参加するというのは、講演する人が先生とするならば、聞く方は生徒。教えていただくという謙虚な姿勢が普通なんです。疑問点を質問する。これは OK です。しかし、意見を言う、というかわいらしい物の言い方ではなかった。

先生に対して詰問する、命令する。異常な感じがしましたね。また、私の後ろのご婦人方も同じような雰囲気醸し出していました。これをぶち壊したと言わずして、何と言いましょうか。

=====

やはり、座間宮さんが発言をしてから会場は、緊張する雰囲気になり、その場に居にくい状態でした。

今回、座間宮さんが言いたい事があるにしても、他にも大勢の参加者が居てるので、座間宮さんの行動はいい感じはしません

発言も途中から最後まで荒々しい言葉でした。

主催者も時間がないと言っていました。

(21 時なので他の方も時間がなかったと思います。)

■ネット上での反響

自分が罵声を飛ばして暴言を吐いたことは全くスルーですね。捏造と印象操作のかたまり

だといわざるを得ません。

友岡さんが放射線の専門家じゃないなんてこと、当たり前でしょう。お門違いなんですよ。しかも、友岡さんはその質問者の主張を否定して圧殺したわけではなく、「わかりました、持ち帰って調べます」というニュアンスだったのですから、何も不当な扱いをしていたわけではないのですが。友岡さんは現在科学で裏打ちされた標準的な見解の範囲でしゃべっていたのですから、主題とも離れていますし、専門家のようにソースをいちいち添付する必要はありません。専門家じゃなかったら福島放射線に関連することについてソース抜きで言及するなどでもいいのではないでしょうか。それはまごうことなき言論圧力です。

それは放射線の専門家以外で福島で活動して講演やお話し会をする多くの人々に同様に向けることができる主張なんではないでしょうか？

自分の考えと同じ人が話すのなら、専門家じゃないと批判することはないわけでしょう？自分がダブルスタンダードな論拠をもとに発言していることがわかっているのかなあ。放射線被曝に関しては脱被曝系、すなわち科学的コンセンサスを超えた極端な放射線忌避派との対話になると、話が平行線になってしまっていたずらに時間を費やすだけだから、司会者はそれ以上時間を費やすことをその場では止めたわけでしょう。それはこれまでの司会者の多数の経験からすれば、至極当然のことです。他の参加者が質問する機会を奪うことになるのですから。講演の主題は福島に限らず、震災で傷ついた東北の復興を考えた時に現地の人たちとどうつながって行動していくのかということだったわけだから、放射線被曝のことを極端な放射線忌避派の立場で主張し続けたいのなら、別の場所でやってくれということですよ。

質問者の二つの主張はどちらも全くの捏造・虚偽だったわけで、ろくに確かめもせずしつこく食い下がっていた質問者のほうも問われなければなりません。この期に及んで座間宮氏が、いまだに質問内容に言及しながら自己正当化を行う主張方法をとるとは不誠実極まりないですね。結局座間宮氏本人も調べていないんでしょうかね。もしそうだとすれば、ソースを追及することが第一目的だったのではなく、場を紛糾させ、ぶち壊して注目を得るという「炎上商法」だったといわれても反論できないのではないのでしょうか。当惑し、傷ついた参加者の方々のことを全く顧みない人物であることがさらにはっきりしましたね。

=====

講演会における「質疑応答」時間は、講演会の内容を深めるためのものであって、自己主張の場じゃない。

■主催者の所感

この日の講演においては、「夜間の開催でなおかつ終了間際である」ことに加え、「学習会の趣旨にそぐわない意見だった」こと、「この講演会そのものが講師と討論会をおこなう形式ではなく、あくまで質疑応答は講演内容に関連した質疑応答の場である」こと、「何度説

明しても主催者の要請に一向に従わない」ことからみて、座間宮氏らの取った行動は、常軌を逸したものであったことは明らかです。しかも、ほかの一般聴講者にも恐怖と不安、そして怒りを与えております。また、この騒動は、東北被災地の復興を心から願って精力的な活動を続ける講師の講演主旨とはおよそかけ離れたことに拘泥した座間宮氏らによって引き起こされた「威力業務妨害」であると考えております。これらの多大なる迷惑行為あるいは侮辱行為に対して一向に謝罪すらせずに、ひたすら自己正当化のゴマカシを続ける座間宮ガレイ氏に対しては、今後も徹底的に追及していく構えです。

7. 座間宮ガレイ氏らの暴言の記録（問題の「質疑」部分の起こし）

騒動となった箇所の文字起こしを掲載いたします。なお、文字起こしは、「素起こし方式」（一字一句全て書き起こす）ではなく、「ケバ取り方式」（「えーと」「あのう」など不要な発言を適度に間引く）にておこなっております。また、発言で聞き取りづらい箇所については、***で表記しております。なお、一部地名につきましては、講師や地域へのいわれなき誹謗中傷等を避けるため、■でマスクしております。

聴講者（女性）：質問ではないんですが、今、福島の木から、セシウムが検出されています。もう芯まで汚染が進んでいますので、木材として扱えない状態です。ですけども、それを木として扱えないので、合板のような形で、切って行って、それを強い接着剤で貼り合わせて木のように加工して出す加工品というような形で、実際の木ではないよという形での、国は許可をしようとしています。で、そういう実態がありますので、芯まで、皮さえむけば大丈夫っていうことではありえません。

講師：いや、僕はこれは皮をむけば大丈夫だと思うんです。

聴講者（女性）：分かりました。それは、検査結果を検索していただいたら大丈夫ですので…

講師：はい。この検査結果を、ちゃんと全部、あの、■■のちゃんと、林業組合のほうからもちゃんと…

聴講者（女性）：はい。この8月、9月に、新しいのが発表されていますので、残念ながら県も、新しい被害が、実害があるということは、風評被害ということでもって、実害があるということを伏せてきていますので、その点については大変申し訳ないですけど、私は福島県民ですので、そこところは悲しいぐらい身にしみております。

講師：福島と茨城と栃木が、ひとつの、まあ言うたら、山続きですよ。で、ベクレルからいうと、福島の阿武隈山系の木と、それから茨城、栃木の木というのはほとんど変わらない、ですよ。ただ、そこで茨城と栃木と福島で、ひとつの連合をつくって、この木に関してはどうしたらいいのか、というふうなことをしようとしたんですけど、茨城と栃木が抜けたんですよ。それはなぜかという、福島と一緒にになったら自分たちの県もそういうふうなものと考えられてしまうから、ということで、茨城と栃木は抜けていったわけです。で、地域によっても、大きく木というのは異なりますし、あるときにどう風が吹いていったかによっても全然異なりますし、僕が支援しているところは、■■■の、ある製材屋さんのところを支援させていただいたんですけど、そこは今日ちゃんと、毎月 1 回、線量検査をやって、今日持っていきはりました。で、今日もゼロやったので、芯材のところを使って、やってはると。

司会者：はい、もうそろそろ時間なんですけど、質問まだありますか？ よろしい？

(ここまでは、見解に相違はありつつも口論は一切起きていない。ここから混乱が始まる)

座間宮氏：はい。

司会者：はい。

座間宮氏：今の話はね、経験論の 2 人の話なので、私のところはこうですという、意見のぶつかり合いですよ。ですから、そのファクトを示したら早いと思うんですよ。その、合板で出してるところもあるかもしれないし、そうじゃなくて、ここは大丈夫だから丸々出してる、出せるというところもあるかもしれないわけですから、今はどっちかが正しいという論争は、これ、解決を見ない気がするんですよ。【普通の声量】

講師：これ、線量は公表されてますんで。線量に関しては。【ごく穏やかな口調】

座間宮氏：いや、だから、あのう、今プレゼンでしか伝えられてないんですね。【普通の声量】

講師：あ、見ていただいた… 【ごく穏やかな口調】

座間宮氏：【発言をさえぎり】 いや、そうじゃなくて、プレゼンテーションする人は、今す

ぐそこでパソコンでググったらすぐ出るので、10秒で調べて出してみたら、分かると思う
んですよね。インターネット開けばね。【やや大きな声】

聴講者（女性）：そうだ、そうだわ。でないと分からへん…

聴講者（女性）：分からへん…

座間宮氏：だから、言い張られても、それ、福島に住んでいる人は苦しいわけですから…
【やや大声で詰問調】

講師：というか、苦しいでしょ？ だから、そういうことなんですよ… 【普通の声量】

座間宮氏：だから、だから、今、私の言った方法で30秒で調べて出すことはできるわけ
ですから、あなたが専門家でしたら、それをやって、私たちに、なるほどと思わせる必要が
私あると思いますよ。【やや大声で詰問調】

聴講者（女性）：うん、そうだと思います。

座間宮氏：今、今、専門家が我々庶民を、言論で… 【やや大声で詰問調】

講師：僕は専門家でもなんでもないというか、僕は支援者ですから… 【普通の声量】

聴講者（女性）：でもプレゼンテーションしゃべってるんなら… 【早口で詰問調】

座間宮氏：じゃ、じゃ、あ、専門家じゃないんですね？ 【やや大声で詰問調】

講師：ええ。【普通の声量】

座間宮氏：じゃあ、あなたの言うことは信用できないので調べてください。【大声で詰問調】

講師：はい、分かりました。いや、でも別に、僕はこのことを言えばよかった、放射線
のことに限っては、絶対、こっちの意見（と）こっちの意見ってあるんですよ。【普通の声量】

座間宮氏：いや、だからそうじゃなくて、今は放射線の話じゃなくて、こうやって議論が
意見が、2つの意見が違ってぶつかって、どっちも正しいって言ってるんだったら、私たち
は第三者で、聴いていて納得ができないわけですから… 【大声で詰問調】

聴講者（女性）：***（座間宮氏の『だからそうじゃなくて、今は放射線の話じゃなくて』の辺りに被さりながら口々に何か言ってるが、座間宮氏の大声で聞き取れず。）

聴講者（女性）：そうそう…

司会者：あのう、あの、よろしいですか。

座間宮氏：調べたらいいですよ。【大声で詰問調】

司会者：あの、よろしいですか。【普通】

聴講者（女性）：そうですそうです。【普通】

座間宮氏：うん。【普通】

司会者：時間も限りありますし、で、このことを主要なテーマとして今日は…【普通】

講師：それは、あなたが調べてください。【やや大声。ここで初めて強い口調で反論】

聴講者（女性）：違うよ。【声量は普通。吐き捨てるような言い方】

座間宮氏：いやいやいやいやいやいやいやいや…【やや大声】

聴講者（女性）：え～。

聴講者（女性）：今ここにパソコンがあるんですから…【大声で詰問調】

講師：違うでしょ。私の話ではなくて、それぞれが自分の目でやるという…【大声で強い口調で反論】

座間宮氏：いや、まあまあ、分かりました。【やや大声】

聴講者（女性）：(笑い声)

座間宮氏：iPhone でググりますから、キーワード教えてください。【やや大声】

講師：そしたら、■■■。【普通の声量】

座間宮氏：■■■。【普通の声量】

講師：■■■です。【普通の声量】

座間宮氏：そなん、俺調べるよ。俺調べたら早いよ。 【かなり偉そうな言い方】

聴講者（女性）：■■■***（違うの？01：57：21）？ 【普通の声量】

講師：■■■です。で、***（01：57：26）。【普通】

座間宮氏：え？ 福島県全体じゃないんですか？ 【やや大声で詰問調】

講師：まず、■■■調べてください。【普通の声量】

聴講者（女性）：なんで？【普通の声量】

司会者：あのう、ちょっとよろしいですか。あの、私主催者ですからね。もう時間も限られてますから。恐らく皆さんご意見違うのは、見解の相違はあるのは分かりますので、大事なことは調べたら分かるということで。で、まあ、あのう… 【普通の声量】

講師：■■■です。【普通の声量】

司会者：講師は、自分で見て聞いて取材して、そのことで分かる範囲のことをおっしゃっているということなので… 【普通の声量】

座間宮氏：いや…

司会者：それは時間があれば調べたらいいでしょうけど、それについて意見が違うんだつたら、それは違うということで、引き続き議論するのは別の場でしていただいて… 【普通の声量】

講師：僕が言ってるのは、そういう議論をもうやめましょうという話です。【普通の声量】

聴講者（女性）：え？ 【普通の声量】

座間宮氏：え？ 【普通の声量】

講師：つまり、それぞれがそれぞれの立場で、自分で考えて自分で… 【普通の声量】

座間宮氏：いや、いやいや、ファクトは1つでしょう？ 今の話って？ 【やや大声】

講師：違いますよ、違いますよ。【普通の声量】

座間宮氏：え？ 【やや大声】

講師：あなたにとってのファクトがあるかです。【やや大声】

座間宮氏：いやいや… 【やや大声】

聴講者（女性 B）：いや… 【普通の声量】

講師：あなたにとってのファクトというのは、あなた***（複数の声が被って聴き取れず）… 【大声】

聴講者（女性）：いやいやいやいやいやいやいや…

座間宮氏：いやいや、いやいや、そうじゃなくて■■さんの林業組合が、どういう方針でやってるかというあなたの意見は、あなたのファクトじゃなくて… 【大声で詰問調】

講師：そうです。それを… 【強く主張】

座間宮氏：私の意見とは関係ありません。【やや大声】

講師：それを通じて、あなたがどう思うかって、あなたにとっての… 【やや大声で強く主張】

聴講者（女性）：それを***（複数の声が被って聴き取れず）…

司会者：あのね、ちょっとね、主催者が言ってるんですからね、あの、もうやめてもらえ

ませんか… 【普通の声量】

聴講者（女性）：いや、ちょちょ…

座間宮氏：いや、だから… 【やや大声】

司会者：いや、そういうの議論やめてください、もう。時間もないんですから。【やや大声】

聴講者（女性）：そっちに言って。

司会者：あのね…

座間宮氏：おかしいでしょう？

司会者：大事な議論、ということで、他にも大事なこと、私も聞きたいこといろいろあったんです。

聴講者（女性）：***

司会者：他の方もききたいことがあるんです。この問題は、見解相違で、調べてね、（※この辺りから座間宮氏が荷物をまとめて退出する準備を始めたと思われるザワザワ音が開始）後で決着つけるということそれはそうですし。ご意見は皆さん、それはごもっともですから。その上で、そういう議論もあるということで、これ、放射能の問題だけではないと思いますので。今日のメインテーマは、「東北から日本の希望」というのを考えるという、そういう主旨のところでありますので。

座間宮氏：申し訳ないですが司会進行に非常に不満があります。 【大声で詰問調】

（この辺りから、座間宮氏が立ち上がって退席のために歩いていることが分かる音声）

聴講者（女性）：そうです。

座間宮氏：今、事実がどっちか、っていうのは、私の主観ではありません。【大声で詰問調】

講師：いや、あなたの主観ですよ。

座間宮氏：いや、違います。【大声で詰問調】

聴講者（女性）：事実なら1つですよ。【大声で詰問調】

講師：あなたがこれからどうやって生きていくかっていう話ですよ… 【大声で反論】

聴講者（女性）：全然違いますよ。【大声で詰問調】

座間宮氏：関係ありません。今は林業の問題が、ファクトがどうなのか、福島ファクトがどうなのかというあなたの意見と… 【大声で詰問調】

聴講者（女性）：そうよ。

座間宮氏：福島県民の人が言っている意見がぶつかって、我々第三者が判断できないわけですから。【大声で詰問調】

講師：いや、申し訳ないですが… 【普通の声量】

司会者：ですので… 【普通の声量】

座間宮氏：時間の問題じゃないですよ。【怒鳴り声】

聴講者（女性）：そうですね。

司会者：ですので、その、その議論は、今やめに、やめてもらえませんかと…

聴講者（女性）：議論の問題じゃなくて事実はあるでしょ。【やや大声で詰問調】

司会者：事実を、だから…

座間宮氏：専門家じゃないんでしょ、あなた、しかも。 【怒り声】

講師：だから、それに応じて、僕は僕の… 【やや大声で反論】

座間宮氏：で、調べましたよ。ホームページ見てますよ。【大声】

講師：はい。

座間宮氏：で、ホームページで見たけど、分かりませんよ。【大声】

講師：はい。

聴講者（女性）：ふはははは…

聴講者（女性）：そんな問題なの？

講師：じゃ、ゆっくり見てください。【普通の声量】

座間宮氏：はい。【普通の声量】

講師：で、あなたがそれを受けて、あなたとして…【普通の声量】

聴講者（女性）：受けてじゃなくて、その場で事実を出すべきだって言ってるんですよ！【大声・怒り口調】

司会者：もういい加減にしてください。【ここで初めて強く発言。声量は普通】

聴講者（女性）：いい加減じゃないわよ。

司会者：あのね、進行を妨げしないでください。【普通】

聴講者（女性）：進行の妨げじゃなくて事実が…【詰問調】

座間宮氏：いや、普通に出るもんでしょ。議論でしょ、こんなの。【やや大声で詰問調】

司会者：いやいや、時間が…【普通】

主催関係者：いや、あの、だから、時間が無いから議論は今できないと言ってるんですわ。分からないですか？【大声】

司会者：他の人のね、他の人のね…

座間宮氏：いや、失礼だな、この意見。許せないな。【大声】

聴講者（女性）：とりあえず帰るか。【普通の声量】

座間宮氏：ファクトも示せないような話など聴けねえぞ！【怒鳴り声】

聴講者（男性）：はい。【大声】

司会者：はいはい。

聴講者（男性）：そんな議論する場じゃないでしょ、ここは、ね。【普通】

座間宮氏：いや、ファクトを示せて言ったら… 【怒鳴り声】

司会者：あなたも、ファクトを示さないでしょ？ 【やや大声】

座間宮氏：いやいやいや、私は分かりませんからファクトを示してくださいって言ってるんだ！【大声】

聴講者（男性）：いい加減にしてくださいよ、もう。終わってるんだよ講演は。【大声】

司会者：ちょっと、ね。あの、申し訳ないけど、そういうのはね。邪魔なんですよ。そのう…【普通】

聴講者（女性）：木材の放射能基準というものを調べていただいたら出ます。【普通】

座間宮氏：いやいや、意見はありますかって聞いたんじゃ…

司会者：私の進行で進めているのです。調べられたらいいですねと、してるじゃないですか。そこを感情的に…【普通】

座間宮氏：なんかすごい、なんでだってファクトじゃない、自己判断の問題って…【やや大声】

講師：実際、それを***にして、自分がどう動くかと…【やや大声】

司会者：ですから… 【普通】

座間宮氏：いや、それは調べますけど… 【やや大声】

司会者：はい、もうあの、ファクトをね… 【普通】

座間宮氏：やってられない、こんなの。【やや大声】

司会者：はい。【普通】

座間宮氏：最悪やな。【大声】

聴講者（男性）：はい。

【ここで、座間宮氏は会場を退出するも、聴講者の女性たちは進行を妨げる発言を続ける】

司会者：はい。申し訳ないです。はい。あのね、こういう議論って、僕はほんとね、ほんとね、悲しいことだと思うんですよ。

聴講者（女性）：いやよね。（※ヒソヒソ話をしているので、司会者の話に呼応して発した言葉かは不明）

司会者：あのね、私、お互いの意見をね、出し合ってそれで議論することをね…

聴講者（女性）：ちょっとね、パソコンでちょっと調べていただけたらよかった話だなと思います。

司会者：いやいや、そういう問題だけじゃないでしょ。パソコンで示せたって、それ実証するのにね、ちゃんと、彼も言ったようにすぐに見つからないわけですよ。で、このことをテーマにした勉強会だったらね、ちゃんと準備していただいてね、整理していただいたらいいと思うんですよ。で、全ての問題に対して全てね、詰問するような議論をこの場でずっとするってことね、それ言論がどうのって言われたってね、それは進行してるわけですよ。皆さんにとって迷惑ですよ。こういうことするってことが。こんなことで、本当に福島の復興になるんですかって問題だよ！ 【大声で強い口調】

聴講者（女性）：それは…

司会者：私は、私は、あなたのね…

主催関係者：もうやめましょう。もういいですよ。だから、気に入らなかったら帰ってください。【やや大声】

聴講者（女性）：***

主催関係者：今日は科学のね、検証じゃないんですよ。【大声】

司会者：ええ。【普通】

主催関係者：東北の未来なんですよ。【大声】

司会者：***）【怒り声】

聴講者（女性）：怒ることなの？

司会者：怒ることだよ、本当に！ 【怒り声】

聴講者（男性）：ちょっと落ち着こ。

聴講者（女性）：違う。最初に福島の方がね、やっぱり私思ってたんと違うわあいうことで傷ついてはるのが…

聴講者（女性）：そう…

司会者：いや、ですから…

聴講者（女性）：要はね、申し訳ないけど、取材してこられたことは、すごく私は尊敬してるし、やってこられたことも分かった。ただ、いかんせん、やっぱ数値のことは、ペーパー出されるか、ちょっとそちら出されたほうがよかったですねってことを…

司会者：はい。はい、ですので…

聴講者（女性）：それを言ってくれたらよかった…

司会者：それは、その通りだと私は言ってるでしょ。

聴講者（女性）：でしょ。

司会者：ただ、それが今ね、すぐに出せる状況じゃないですしね。

聴講者（女性）：だから、出せる状況でないところは***お話しなさればいい…

司会者：だから、それは、だから講師のご意見はご意見だということで、それに対して怪しいなと思ったら、調べていただいて反論していただいてもいいし、このことだけを今テーマにしているわけじゃないです。福島の放射能がどうなっているかということ今議論してる、それひとつ大事なんだけど、それだけじゃないわけでしょ。【やや大声】

講師：うん、だから、福島の放射能の問題というのは、いろんな意見があって、僕は、一番自分としても、そこ（福島）へ行ってるし、そこへほんまにもろに 10 ミリシーベルト、20 ミリシーベルト（※注記：いずれもマイクロの言い間違い）のところも行ってますし…

聴講者（女性）：10 ミリシーベルトではないです。マイクロです。（小声。講師には聞こえていない可能性が高い）

講師：風評被害じゃなくて、まさにそれは実際の被害であるということも分かっております。その上で、それ（福島復興）をどうするかという話ですよ。

司会者：ですので…

講師：ひとりひとりが、これからどうやって生きていくかという話なんです。

聴講者（女性）：うん。だったら、ちゃんと、先ほどの数値なんかは、やはり分かりやすいように…

講師：でもね、数値を出してもね…

聴講者（女性）：違うの！ 数値じゃなくてってもね、そういう話があれば、今の方のその意見も、怒るようなことはなかったし…

司会者：いやいや、あれはもう大変失礼だ。

主催者：意見違いますよ、あれは。

司会者：まったくもって、あんなのは失礼だよ。自分の言論だけを通すような、あんなやり方、おかしいと思う。

聴講者（女性）：それはもう、いなくなっちゃったから、もういいですけど。

司会者：いやいや、じゃあ…

聴講者（女性）：いやあ、でも、怒って、怒って帰った彼に対して…

司会者：私も怒ってますよ。

聴講者（女性）：私ももう怒る。でも…

司会者：怒りますよ！ もうほんとに。

聴講者（女性）：分かるよ。でも…

主催関係者：もうええよ。ちょっと…

司会者：やめてくれって言ってんだよ、もう！

聴講者（女性）：そんなに怒ることないじゃない。

主催者：もう、9時で終了なんで。

聴講者（女性）：うん。

主催関係者：ここで、論争する場じゃないですし。

司会者：そうですよ。なんで、そんなふうにね、主催者のやってることに対してね、いろいろね…

聴講者（男性）：もう帰りよったからええやんか。な？

司会者：あなたもそうだよ。あなたも立ち上がって帰ろうとすんのかよ！

主催関係者：もういいって、いいっていいって。分かったから。

聴講者（女性）：友達が出たからさ、ちょっとさ、心配でさ、***

司会者：***友達をフォローしたらよろしいやん。

聴講者（女性）：いやいや…（何かぶつぶつ言っているが判読不能）

司会者：皆さんに対して険悪なね、場をしてね、もうぶち壊しだよ、この場は！

聴講者（女性）：ふふっ、こんなので…

講師：もういいって。だから、もう終わりです。

司会者：皆さんひとりひとりの気持ちってことは大切だよ。だけどね、それね、じゃ、みんなの気持ちって考えろよって話だよ。

聴講者（男性）：もうちょっと落ち着いて話そう。

司会者：はい。

聴講者（女性）：そう…

聴講者（男性）：怒ったらあかんよ。

聴講者（女性）：今、一番怒ってはるのは司会者や。

司会者：申し訳ないです。

聴講者（男性）：いや、（あなたがたが）怒らしたんやろ。

司会者：そうです。あの…

聴講者（男性）：いや、彼を怒らしたのは…

聴講者（女性）：***（同時発声で判読しづらいが、「被災者が納得のいくように」「あかんねや」と断片的に聞こえる）

司会者：こんなに怒ることはですね、めったにないです。でも、こんなことが何回も続いて、ずっと我慢してるんです。放射能の話すると。

聴講者（女性）：ですからね、やっぱり…

主催関係者：終わり！ 【大声】

司会者：ね…

主催関係者：終わろ。終わろ。

司会者：進行の邪魔をしないでください。（騒いだ人に対して）

主催関係者：9時なの。9時で終わりなの。会場出ていかなきゃいけないの。

聴講者（女性）：はい。お疲れさまでした。

司会者：皆さんを待たしているのに、（不規則発言で）いろいろ言うてくるでしょ。だから、やめてほしいって言うんですよ、そういうのはもうね、マナーとしていかがかと。つまり、そういうことを、放射能のことをいろいろ言うてくる人は、こういうマナーの悪い人ばかりなんですかというね、見られたらね、損ですよ。そこなんです、皆さん。そういう、ああいう立ち振る舞いをするに対してね。ほんとにそれで、ほんとに東北の、今日の話のね、人たちにね、復興のためになるんですか？

聴講者（女性）：自分も***てるやないの？

司会者：我々自身の未来のためになるんですか？

主催関係者：もう終わろ。

司会者：はい。

主催関係者：終わりって言ったんだから終わろ。両方終わり。両方終わりです。

(会場拍手)

司会者：なぜ黙って皆さん聞いてくれないんですか？

聴講者（男性）：いや、皆さん言うたって、俺は聞いているよ。聞いている人もおんねん。大半の人は聞いている。

司会者：ええ。ね、聞いている人は聞いているでしょと。それぐらいのマナー、分かってください。ここはね、糾弾をする場じゃないんですよ。

聴講者（数名）：そうだ。

司会者：みんなで議論を共有して、違うところは違うということで、お互いの意見の違いを認めたくて、物事を考えていくね、場にしたいんですよ。

聴講者（女性）：そうよ。

司会者：今日はね、本当ね、私もいろいろ聞きたかったんです。宮城と岩手ね、全然違うなど。行政の問題もあるのかなと思ったりしますし、やっぱりその現場で知恵を出して、やっている人たち、そういう人たちの経験で、もちろんそういうので実証的なデータを出せと言われてもね、そりゃ、出せたらいいですよ。で、それを、そういうことの実験で講師がおっしゃっていることについてね、それについて、質問された方に対して敬意を払って、やっぱりお互い前に進むためにどうしたらいいのかということね、そういう場にしたかったんですよ。ま、そうなると思います。

聴講者（男性）：なってます。

講師：なってますよ。

聴講者（男性）：なってますよー。

司会者：ね。やっぱり意見の違いとか、データの評価の違いとか、そういうことについて、

こういう争いを市民の中でやりあいをするようなことは、もうそのことが、まあ、今の大阪みたいな現状になってるような。

聴講者（女性）：うーん。

司会者：だから、地元とか自分の持ち分の中で、自分の頭を使って、「選択と集中」じゃなくて、ばらまきでもいいですけどね。その形で、やっぱり共に支え合う世の中になっていけばいいんじゃないかなとは思いますが。もちろん、こういう激論も僕好きですから。なんぼでもしたいと思えますけどね、今日はそういう場ではないので。機会があればまたやりたいたと思います。よろしければ、そのとき講師も…

（会場笑い・拍手）

司会者：すみません。ということで、いろいろ不手際ありまして時間も遅くなりました皆さん、どうもありがとうございました。

主催関係者：ありがとうございました。

講師：ありがとうございました。

（会場拍手）